

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900352		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホームまつぎきの宿		
所在地	福岡県小郡市松崎字福泉塚476-1 (電話) 0942-73-5500		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 1 日	評価結果確定日	令和 3 年 10 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしい生活を送れるように、認知症専門職として認知症の方一人一人に対しどのようなケアが有効であるか考え、入居者様の笑顔を大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 8 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田んぼや緑豊かな環境に囲まれている。居室からの眺めは緑に溢れ、広い庭にはビワ、キンカン、梅、イチジク、夏みかんの木があり、季節を彩っている。昔、宿場町だったこともあり、施設内はその特徴をいかすような居室の名前が付けられ、居室入り口の上には宿屋の軒先のようなひさしが作られている。認知症ケアに関しては、職員が外部研修に参加する等、深く学んでおり、利用者の背景を考慮することや利用者一人ひとりの生活が希望の実現や役割のある生活、笑顔で過ごせることができるように個別ケアに取り組んでいる。職員は地域で認知症高齢者徘徊模擬訓練のリーダー的役割を担ったり、認知症についても講師を務めるなど地域福祉の中心として活動している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につくところに掲示し、毎朝全職員にて読み上げるにより毎日理念を共有し実践に繋げています。	事業所独自の理念があり、事務所に法人理念、職員心得と共に掲示しており、朝礼で復唱し、職員の意思の統一を図っている。利用者は役割をもって生活ができるように、利用者の行動について、その背景を考えて対応をするなど認知症ケアについて学び、その知識を地域へ還元している。管理者、職員はともに働く中で理念の実現へ取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍にて地域との繋がりが薄くなっているが、散歩において地域の方とコミュニケーションを取るなど交流しています。散歩では野菜を頂いたり、話しかけられたりと地域の方との繋がりが出来ています。コロナ前は、地域の行事（夏祭り、文化祭など）積極的に参加することで地域との関わりを作っていました。	自治会へ参加したり、事業所便りを家族、市役所、交番、保育園等へ配っている。コロナ禍のため、地域活動はほぼ中止となっている中、地域のボランティアの方が畑の手入れをしてくれたり、散歩時に頂き物をするにはある。感染症対策をしながら、専門学校の職場実習を受け入れたり、特別支援学級の花いっぱい運動など、できる限り地域との繋がりを維持している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門職として認知症サポーターの講師にて地域の方、小学生に伝えている。また、地域からの徘徊模擬訓練の参加、相談など協力をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議は、文書で実施しています。コロナ禍前は、地域の方々に集まって頂き、入居者の状況や認知症について、地域の行事など様々な事を話し合い事業所と地域の繋がりを持っています。	コロナ禍のため、運営推進会議は現在2ヶ月毎に書面にて開催している。利用者家族、市役所、民生委員、老人会、地域代表へ送り、施設内の利用状況、事故報告を送っている。コロナ前は地域の方からの要望で、勉強会を開催していた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも市担当者に参加いただく。また、会議を通して市町村には事業所の考えを伝え、市町村からの意見を聞く等おこない情報交換に努めていくことで、より良いケアに繋げています。	市役所や地域包括支援センターには、運営推進会議以外でも日頃から相談、報告などを行っている。地域包括支援センターからは、広報誌へ認知症についての記事の依頼を受けたこともあり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、毎月身体拘束ゼロ継続の為に入居者情報を話し合っています。帰宅欲求などのBPSD発生時においても背景を考え身体拘束に繋がらない工夫をしています。また、家族にも施錠など身体拘束ゼロを取り組んでいる事を説明し理解を求めています。	玄関、窓、居室などすべて施錠はしていない。玄関にはセンサーを設置し、チャイムが鳴るようにしている。身体拘束については、職員全員が研修を受け、利用者の行動に対してその背景を考えて見守りや付き添いなどを行い、行動制限を行わない介護を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者より常に権利擁護について例をあげ口頭でより良い方法について指導する。職員が調べての権利擁護を周知しています。また、職員間においても馴れ合いの仲間にならず責任あるケアに取り組むように周知し、虐待防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、成年後見制度の資料を回覧するなど実施し全職員が学ぶ機会を作っている。また、家族にも必要に応じて成年後見制度がある事を伝えています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度等の権利擁護に関する研修は、研修資料を回覧して職員全員が内容を確認している。管理者は家族が来園した折には必ず話をするようにし、相談があった時やその必要を感じた時は、資料を用いて説明を行い、情報提供を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明することにより家族の不安などを聞き取り納得いく説明を図っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族からの要望・苦情に関しては、意見箱を玄関に設置したり、外部への相談窓口を掲示しています。また、コロナ禍以前は、年に一度家族会を開き意見交換と家族交流を図っていました。常に職員と家族が話しやすい信頼関係と環境作りをしています。	職員は担当利用者以外についても十分熟知しており、意向や思い、希望を聞き取り、実現できるように取り組んでいる。家族会はコロナ禍のため実施されていないため、来園時に管理者より声をかけ、意見や希望を聞くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのミーティング（1階・2階・指導職）の時間を作っている事、職員からの意見を指導職が聞き取り管理者へ報告するなど意見を述べやすい環境を作っています。	管理者はフロアミーティングや日々の業務の中で、職員の意見を聞くようにしており、話しやすいように個別に話を聞くようにしている。職員からの意見に対しては、できるだけ早く回答や解決案を出して、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員個々のレベルを確認し把握しています。また、個々に合わせた指導をOJTにて実施、外部研修参加をすること、個人目標を掲げたりと各自向上心を持ちながら働きやすい職場環境を作っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人にて人事担当職員が適切に採用に当たっています。また、事業所でも個々にあった外部研修を受け、個々の能力を高め、職場環境を整えつつ現場でのケアに反映させながら人材育成し職員差別・偏見がないようにしています。	採用に関しては法人が行うが、年齢や性別は条件にしていない。入職時は、個別の技量にあった業務に入ってもらい、指導教育を実施している。家庭の事情に合わせた勤務体制を整え、職員が安心して働ける職場を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権だけでなく、職員の人権も守られるように、外部研修・ミーティング、等行う事は、法人からも周知されています。	人権について内部・外部研修を組み合わせ、職員が全員受けられるようにしている。ミーティングの中でも管理者から指導を行っている。利用者の尊厳を念頭に日常の業務を行っている。研修を行うことで職員から人権に関する質問が出ることもある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育に関してはOJTを活用し指導職が中心となり個々の技量に合わせて職員教育を常実施しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH、病院医師など連絡を取り合いコロナ禍の情報共有を実施しています。また、包括ケアシステム会議など地域の会議にすることでネットワークを作っています。同法事内のGHにおいても情報共有することでケアの質の向上、職員悩み解決等に取り組んでいます。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来られた際には、本人の気持ち聞き出せるように傾聴しながら、ご家族からも本人の困っている事、不安な事を聞き出すようにしています。GHでは本人様が笑顔で安心して生活するために役割を持ってもらい本人のペースで過ごせるケア方法を考えている事を本人へ伝えていきます。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際には、家族の悩み、介護の大変さを共感しながら聞き取り、GHでの取り組みなどを話し家族で出来る役割を伝えることで信頼関係を構築できるように会話を十分に行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、本人、家族が不安に思っている事、本人、家族の要望などを聞き取ることで必要に応じて地域資源も視野に入れ安心できる方法を検討しGHが居心地よい環境になるように努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が何を望んでいるのか、どのような環境が一番落ち着けるのかを考え、認知症の方が、あなた（介護者）の為に手伝っているよ、という気持ちになれるようなケアが実践できると入居者の方も職員も安心できる生活、ケアが出来るようにお互いの信頼関係を築いています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の役割を大事にして、本人と家族の時間が作れるような環境作り、家族の役割を伝えることにより、みんなで入居者を支えていく関係を作っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの地域・人との関係を断ち切らないように、馴染みのある物を居室に飾る、馴染みのある場所を車で通る、馴染みのある方に電話をかけるなど関係が途切れないように支援しています。	利用者や家族から聞き取りを行い、馴染みの場所や人について把握している。利用者は地元の方が多く、近くの大型店舗へ行ったときに知人と会うこともある。知人や家族への電話の支援や、地域の文化祭の作品展示など、地域との関係が継続できるように支援をしている。傾聴ボランティアのオンライン訪問も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が毎日笑顔で孤立しないように職員が中に入り話しやすい環境作りをしたり、入居者同士の関りができるように職員がさりげないケア、入居者同士で一緒に出来る役割をもてるように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した事業所であってもどのように過ごしていたかなど、必要に応じて連絡をとりあったり、事前に資料を頂いたりしています。また、経過報告をすることで関係を断ち切らないようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活は何か常に認知症の方とのコミュニケーション、BPSDを重要視しています。そして、職員間で考え職員視点のケアにならないように入居者中心のケアに繋がるようにしています。	職員はコミュニケーションが困難になった利用者に対して、これまでの情報をもとに個別ケアに活かせるよう実践している。さらに、日課としていろいろな役割を持ってもらうことで、利用者本位の生活が送れるよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のBPSDに対しては、背景を探る為にひもときシートや過去の生活状況をケアに繋げています。また、入居前に、出来る限り以前の生活歴や趣味など聞き取ることで今までの生活の継続になるように努力しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個別に生活の流れを支援することで心身状態把握、出来ることの気づきなどを全職員で情報共有しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしい生活を継続するために、本人視点に立ち本人が何に困っているのかをチームで検討しケアに繋げています。その為に、アセスメントおこない、介護計画の評価を毎月おこなうことで常に入居者視点のケアが出来るように支援しています。	介護サービス内容は具体的に記され、職員がいつでも確認できるようファイルにまとめている。日頃の様子が伝わるよう介護計画を実践した評価、体調面、夜間睡眠の状態、活動状況を家族へ毎月文書でまとめて郵送している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では、入居者の気付きの記録、職員と情報共有したい記録を取る様に心掛けています。気づき、BPSDなど全職員で記録で情報共有することで介護計画の見直し、その方に適したケア方法を常に検討しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の職員ケアだけでなく、ニーズに合わせて様々なサービスを取り入れるように工夫をしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院・主治医との連携にて迅速な対応をとったり、以前はボランティアにも手伝ってもらい地域の行事に参加したりしていました。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、馴染みのある主治医の継続や、往診 possibleの有無、本人・家族同意のもと主治医に変更など適切な医療を受けられるようにしています。	かかりつけ医を継続して受診することができ、車椅子で受診が困難な利用者に対しては、職員が通院介助をしている。病状により専門医が必要と判断した場合は関係機関と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護側からの視点で看護師と情報共有するために、口頭・電話にて伝えるなどしている。また、看護師からの視点の助言は申し送りノートに記入するなど全職員が情報共有できるようにしています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとの信頼関係を作っておくことで情報共有しやすい環境を作って早期退院できるように、取り組んでいます。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り前には、本人・家族の意向を事前確認をしています。看取り介護についてはチームで取り組むことが出来るように勉強会、資料作成、ケア体制を作っています。	平成25年から看取り介護を実践しており年に1～2件程度の実績がある。管理者や主治医からの説明や指示は職員の不安、ストレス軽減につながる。マニュアルなども整備しており、夜間帯の急変にも対応できる。看取りが終了した後は職員間で振り返り、次の実践に向けて意見交換している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応が全職員できるように、資料の作成、AED使用方法、急変時対応勉強会を実施し実践の現場で冷静敏速に対応できるようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・自然災害時の簡単なマニュアルを作り、また、緊急連絡を区長に協力してもらおうなど地域のかも借りながら全職員が対応できるように整備しています。	災害時のマニュアルは整備しており、夜間想定を含めた訓練も実施している。非常時には区長へも連絡が行く体制になっている。備蓄は事業所内にあり、一覧表にて消費期限など管理している。寒さをしのげるような物品など備蓄の種類を追加を検討する予定である。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、認知症ケアについて、認知症専門職としての心がまえ等に対しては、管理者より常に全職員に伝えていきます。また、個別に指導が必要な職員に関しては、個別指導を行っています。	管理者は日頃から言葉かけや援助方法に不適切なことはないか確認している。排泄の声の掛け方やドア、カーテンの開け閉め、失禁時の対応、職員同士の会話を意識して関わるよう実践している。家族とは個人情報保護に関する同意を書面で交わし、内容は具体的に記載している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、自律（自ら選ぶことができる）支援を考えるうえで自己決定しやすいケアを常に取り組んでいます。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日笑顔で過ごせるように介護者は常に考えパーソンセンタードケアを基本に入居者に無理強いをさせないように入居者のペースで過ごして抱けるように支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるようにしています。例えばお風呂上りに化粧水をつける。出かける前には化粧をするなど身だしなみの支援も心掛け実施しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、嫌いな物、食べられない物、体調に合わせてなど個別に対応できるようにしています。また、コロナ禍前は、職員と一緒に食事を作り食べる、鍋を囲んで食べるなど美味しく食事ができる工夫をしています。	3食とも職員が台所で調理しているため、音や匂いなど五感で食を楽しむことができる。食事形態は本人の状態に合わせて調理され、法人の栄養士がカロリー等計算した献立であるため安心できる。食事開始時間は利用者に合わせて個別に設定している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、法人の栄養管理者が考え食材の発注をしています。水分に関しては職員が必要に応じて記録するなどして管理しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、歯磨きの声変えかけ、必要に応じて介助をする、歯科のアドバイスをもらうなどして実施しています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、トイレの声掛け、介助をすること、排泄の失敗を責めることなどせず、自立したトイレ内での排泄を促しています。また、介助でのトイレ内排泄を実施しています。	排泄は本人の状態に合わせて共同トイレを使用する場合があります。パッドは本人の不快感が継続しないよう時間によって種類を変更し、適した大きさを使用している。排泄記録は介護ソフトで管理し、日々の状態やパターンが一目で分かり、次の支援に活かしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽運動の実施や、天気の良い日には散歩、外気浴などすることで体を動かす時間を作っています。また、主治医に相談し便秘改善方法を検討しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	無理強いをさせない、嘘をついて入ってもらわれない等を全職員共通認識してケアに取り組んでいます。また、リラックスしてもらいように、入浴剤や入浴中の会話などを重視しています。	入浴は毎日設定され、利用者の希望に応じたスケジュールで支援している。一般家庭の浴槽に近く、座位が保てない方は職員が抱えて湯船につかる。季節によってはゆず湯や入浴剤を使用し入浴を望まない利用者は日程を変えるなど柔軟に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の眠たい時間に合わせて入眠を促しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、専門職である外部薬局に管理してもらい、職員は薬管理写真を作ること で何をいつ服用しているか分かるように工夫 をしています。また、服薬ミスが行らない よう声出し、指差し確認、トリプル チェックを徹底しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の役割を大切にしている為、個々の出来 ることを見つけ出し継続出来るように支 援しています。また、快刺激を与えること で笑顔ある生活が出来ると考えています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて密になる外出は中止している が、散歩、玄関先などは出るようにしてい る。コロナ前は、墓参り、外食、コンサ ート、温泉など本人、家族希望に沿ってケ アしています。	コロナ禍のため外出機会が減っている状況 である。散歩は支援しているが、外食や買 い物は今後も状況を見て実践していく予 定である。家族の協力を得ながら、でき る限り本人の意向に沿った場所を選択し て楽しんでいただきたいと思いますとの 思いがある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、お金を持ってもらい自分で 支払うなどしてもらえるように支援してい るが、現在コロナ禍にて外出していない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話したいなど希望がある際や、家 族・知人から贈り物など頂いた際にも本 人から電話するなど支援しています。ま た、電話にて本人が上手く話せない場 合には職員が電話先に説明し本人に 変わるなど配慮しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人一人が快適に過ごせるよう に、個別に場所が分かるように張り紙 をしたり室内の温度管理をしたりと 居心地よい環境作りをしています。	フロアや廊下は広く車椅子でも特段不 自由さはない。台所とも面しているた め調理過程を感じることができる。窓 は大きく、日差しが入り、庭も見え るため、四季を感じることができる。 廊下には年間を通して行事写真や 作成物が掲示してある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にても、テレビの前にソファを 設置することで、一人でゆっくり過ごされ たり、数人で話ができる環境を作っていま す。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、馴染みのあるもの、安心できる もの、張り紙をして場所を分かりやすくす るなどして居心地よい環境作りを工夫して います。	居室はフローリングでベッド以外は持ち込 み可能であり、仏壇やテレビ、テー ブル、タンスの配置では個性を感じる。清掃も行 き届いており、清潔感がある。廊下から直 接部屋の様子が見えないようカーテンが設 置され、プライバシーにも配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人らしい生活ができるように、認知症 状の理解と、継続して出来る事、新たに 出来ることを見つけ出しさりげない支援を することで自立した生活が継続できるよ うに工夫しています。例えば、立ち上がり やすいソファ、歩行器でも安全に歩ける 環境など		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につくところに掲示し、毎朝全職員にて読み上げることにより毎日理念を共有し実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍にて地域との繋がりが薄くなっているが、散歩において地域の方とコミュニケーションを取るなど交流しています。散歩では野菜を頂いたり、話しかけられたりと地域の方との繋がりが出来ています。コロナ前は、地域の行事（夏祭り、文化祭など）積極的に参加することで地域との関りを作っていました。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門職として認知症サポーターの講師にて地域の方、小学生に伝えている。また、地域からの徘徊模擬訓練の参加、相談など協力をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議は、文書で実施しています。コロナ禍前は、地域の方々に集まって頂き、入居者の状況や認知症について、地域の行事など様々な事を話し合い事業所と地域の繋がりを持っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも市担当者に参加いただく。また、会議を通して市町村には事業所の考えを伝え、市町村からの意見を聞く等おこない情報交換に努めていくことで、より良いケアに繋げています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしており、毎月身体拘束ゼロ継続の為に入居者情報を話し合っています。帰宅欲求などのBPSD発生時においても背景を考え身体拘束に繋がらない工夫をしています。また、家族にも施錠など身体拘束ゼロに取り組んでいる事を説明し理解を求めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者より常に権利擁護について例をあげ口頭でより良い方法について指導する。職員が調べての権利擁護を周知しています。また、職員間においても馴れ合いの仲間にならず責任あるケアに取り組むように周知し、虐待防止に努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、成年後見制度の資料を回覧するなど実施し全職員が学ぶ機会を作っている。また、家族にも必要に応じて成年後見制度がある事を伝えています。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明することにより家族の不安などを聞き取り納得いく説明を図っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族からの要望・苦情に関しては、意見箱を玄関に設置したり、外部への相談窓口を掲示しています。また、コロナ禍以前は、年に一度家族会を開き意見交換と家族交流を図っていました。常に職員と家族が話しやすい信頼関係と環境作りをしています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのミーティング（1階・2階・指導職）の時間を作っている事、職員からの意見を指導職が聞き取り管理者へ報告するなど意見を述べやすい環境を作っています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員個々のレベルを確認し把握しています。また、個々に合わせた指導をOJTにて実施、外部研修参加をすること、個人目標を掲げたりと各自向上心を持ちながら働きやすい職場環境を作っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人にて人事担当職員が適切に採用に当たっています。また、事業所でも個々にあった外部研修を受け、個々の能力を高め、職場環境を整えつつ現場でのケアに反映させながら人材育成し職員差別・偏見がないようにしています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権だけでなく、職員の人権も守られるように、外部研修・ミーティング、等行う事は、法人からも周知されています。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育に関してはOJTを活用し指導職が中心となり個々の技量に合わせて職員教育を常に実施しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH、病院医師など連絡を取り合いコロナ禍の情報共有を実施しています。また、包括ケアシステム会議など地域の会議にすることでネットワークを作っています。同法人内のGHにおいても情報共有することでケアの質の向上、職員悩み解決等に取り組んでいます。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来られた際には、本人の気持ち聞き出せるように傾聴しながら、ご家族からも本人の困っている事、不安な事を聞き出すようにしています。GHでは本人様が笑顔で安心して生活するために役割を持ってもらい本人のペースで過ごせるケア方法を考えている事を本人へ伝えています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際には、家族の悩み、介護の大変さを共感しながら聞き取り、GHでの取り組みなどを話し家族で出来る役割を伝えることで信頼関係を構築できるように会話を十分に行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、本人、家族が不安に思っている事、本人、家族の要望などを聞き取ることで必要に応じて地域資源も視野に入れ安心できる方法を検討しGHが居心地よい環境になるように努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が何を望んでいるのか、どのような環境が一番落ち着けるのかを考え、認知症の方が、あなた（介護者）の為に手伝っているよ、という気持ちになれるようなケアが実践できると入居者の方も職員も安心できる生活、ケアが出来るようにお互いの信頼関係を築いています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の役割を大事にして、本人と家族の時間が作れるような環境作り、家族の役割を伝えることにより、みんなで入居者を支えていく関係を作っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの地域・人との関係を断ち切らないように、馴染みのある物を居室に飾る、馴染みのある場所を車で通る、馴染みのある方に電話をかけるなど関係が途切れないように支援しています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が毎日笑顔で孤立しないように職員が中に入り話しやすい環境作りをしたり、入居者同士の関りができるように職員がさりげないケア、入居者同士で一緒に出来る役割をもてるように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した事業所であってもどのように過ごしていたかなど、必要に応じて連絡をとりあったり、事前に資料を頂いたりしています。また、経過報告をすることで関係を断ち切らないようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活は何か常に認知症の方とのコミュニケーション、BPSDを重要視しています。そして、職員間で考え職員視点のケアにならないように入居者中心のケアに繋がるようにしています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のBPSDに対しては、背景を探る為にひもときシートや過去の生活状況をケアに繋げています。また、入居前に、出来る限り以前の生活歴や趣味など聞き取ることで今までの生活の継続になるように努力しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個別に生活の流れを支援することで心身状態把握、出来ることの気づきなどを全職員で情報共有しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしい生活を継続するために、本人視点に立ち本人が何に困っているのかをチームで検討しケアに繋げています。その為に、アセスメントおこない、介護計画の評価を毎月おこなうことで常に入居者視点のケアが出来るように支援しています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では、入居者の気づきの記録、職員と情報共有したい記録を取る様に心掛けています。気づき、BPSDなど全職員で記録で情報共有することで介護計画の見直し、その方に適したケア方法を常に検討しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の職員ケアだけでなく、ニーズに合わせて様々なサービスを取り入れるように工夫をしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院・主治医との連携にて迅速な対応をとったり、以前はボランティアにも手伝ってもらい地域の行事に参加したりしていました。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、馴染みのある主治医の継続や、往診可能の有無、本人・家族同意のもと主治医に変更など適切な医療を受けられるようにしています。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護側からの視点で看護師と情報共有するために、口頭・電話にて伝えるなどしています。また、看護師からの視点の助言は申し送りノートに記入するなど全職員が情報共有できるようにしています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとの信頼関係を作っておくことで情報共有しやすい環境を作って早期退院できるように、取り組んでいます。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り前には、本人・家族の意向を事前確認をしています。看取り介護についてはチームで取り組むことが出来るように勉強会、資料作成、ケア体制を作っています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応が全職員できるように、資料の作成、AED使用方法、急変時対応勉強会を実施し実践の現場で冷静敏速に対応できるようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・自然災害時の簡単なマニュアルを作っています。また、緊急連絡を区長に協力してもらうなど地域のかも借りながら全職員が対応できるように整備しています。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、認知症ケアについて、認知症専門職としての心がまえ等に対しては、管理者より常に全職員に伝えていきます。また、個別に指導が必要な職員に関しては、個別指導を行っています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、自律（自ら選ぶことができる）支援を考えるうえで自己決定しやすいケアを常に取り組んでいます。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日笑顔で過ごせるように介護者は常に考えパーソンセンタードケアを基本に入居者に無理強いをさせないように入居者のペースで過ごして抱けるように支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるようにしています。例えばお風呂上りに化粧水をつける。出かける前には化粧をするなど身だしなみの支援も心掛け実施しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、嫌いな物、食べられない物、体調に合わせてなど個別に対応できるようしています。また、コロナ禍前は、職員と一緒に食事を作り食べる、鍋を囲んで食べるなど美味しく食事ができる工夫をしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、法人の栄養管理者が考え食材の発注をしています。水分に関しては職員が必要に応じて記録するなどして管理しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、歯磨きの声変えかけ、必要に応じて介助をする、歯科のアドバイスをもらうなどして実施しています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、トイレの声掛け、介助をすること、排泄の失敗を責めることなどせず、自立したトイレ内での排泄を促している。また、介助でのトイレ内排泄を実施しています。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽運動の実施や、天気が良い日には散歩、外気浴などすることで体を動かす時間を作っています。また、主治医に相談し便秘改善方法を検討しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	無理強いをさせない、嘘をついて入ってもらわない等を全職員共通認識してケアに取り組んでいます。また、リラックスしてもらうように、入浴剤や入浴中の会話などを重視しています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の眠たい時間に合わせて入眠を促しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、専門職である外部薬局に管理してもらい、職員は薬管理写真を作ること で何をいつ服用しているか分かるように工夫 をしています。また、服薬ミスが行らない よう声出し、指差し確認、トリプル チェックを徹底しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の役割を大切にしている為、個々の出来 ることを見つけ出し継続出来るように支 援しています。また、快刺激を与えること で笑顔ある生活が出来ると考えています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて密になる外出は中止している が、散歩、玄関先などは出るようにしてい る。コロナ前は、墓参り、外食、コンサ ート、温泉など本人、家族希望に沿ってケア しています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、お金を持ってもらい自分で支 払うなどしてもらえるように支援してい るが、現在コロナ禍にて外出していません。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話したいなど希望がある際や、家 族・知人から贈り物など頂いた際にも本人 から電話するなど支援しています。また、 電話にて本人が上手く話せない場合には職 員が電話先に説明し本人に変わるなど配慮 しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人一人が快適に過ごせるように、 個別に場所が分かるように張り紙をしたり 室内の温度管理をしたりと居心地よい環境 作りをしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間に、ソファを設置することで、一人であつろげる空間作りをしています。また、気の合った入居者同士で話しやすいテーブルの配置をすることで安心した環境になるように工夫しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、馴染みのあるもの、安心できるもの、張り紙をして場所を分かりやすくするなどして居心地よい環境作りを工夫しています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して過ごして頂く為、身体機能に合わせて、居室、共同空間に平行棒を設置するなど安全に自由に移動できる空間を作るなど工夫しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		